

5 May

4 [水・祝]—5 [木・祝] とよはしアートフェスティバル2022 大道芸inとよはし
◎PLAT主ホール、アートスペース

8 [日] 城バリエスタジオ 第1回ミニコンサート◎PLATアートスペース

9 [月] 国際芸術祭「あいち2022」関連講演会◎PLATアートスペース

13 [金]—15 [日] パルコ・プロデュース2022『セールスマンの死』
◎PLAT主ホール

18 [水]—19 [木] 豊橋演劇鑑賞会 第290回例会
文学座『一銭陶貨 ～七億分の一の奇跡～』◎PLAT主ホール

20 [金] 松原健之コンサート◎PLAT主ホール

21 [土] プラットワンコインコンサート
こてまりデュオ『チューバとピアノで誘うファンタジー』
◎PLATアートスペース

22 [日] あゆちウインドオーケストラ 第3回定期演奏会◎PLAT主ホール

23 [月] 桂文我独演会◎PLATアートスペース

28 [土]—29 [日] 『ロビー・ヒーロー』◎PLAT主ホール

28 [土] 新津くらら 無伴奏ヴァイオリンリサイタル
◎PLATアートスペース

PLAT
CALENDAR



表紙/温水洋一 イキウメ『関数ドミノ』
裏表紙/チャラン・ポ・ランタン「大道芸inとよはし」
撮影:磯部昭子
企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン/味岡伸太郎+有限公司STAFF
令和4年4月発行55号[隔月発行]



June 6

ビティナ・ピアノステップ ◎PLATアートスペース 5 [日]

PLATダンス・レジデンス作品集 10 [金]—11 [土]

京極朋彦『カイロー』 BATIK『春の祭典』

富士山アネット『Unrelated to You』
◎PLATアートスペース

満帆会 日本舞踊発表会 ◎PLAT主ホール 12 [日]

三河インテリアコーディネータークラブ 講演会 15 [水]

◎PLATアートスペース

ドリコムセミナー2022 医療・教育・福祉・健康系 16 [木]

オール学校ガイダンス
◎PLATアートスペース

『黄昏』◎PLAT主ホール 18 [土]—19 [日]

Hoge Band 還暦記念ライブ 19 [日]

◎PLATアートスペース

イキウメ『関数ドミノ』◎PLAT主ホール 25 [土]

第40回アコーディオンコンサート 26 [日]

◎PLATアートスペース

『フォーティンプラス』28 [火]—30 [木]

◎PLAT主ホール

PLAT NEWS

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2022年5月—6月
vol. 55



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

プラットニュース

CONTENTS

表紙

イキウメ『関数ドミノ』 温水洋一

2

INTERVIEW:1

大道芸inとよはし

今この場で

共通のことを優先する

とれが僕たちの手法。

ゼロロ×橋本隆平

6

INTERVIEW:2

PLAT

ダンス・レジデンス

作品集

踊るために生きている。

黒田育世

8

INTERVIEW:3

イキウメ『関数ドミノ』

派手をスーパーヒーロー物を

ずっと妄想してきた。

前川知大×安井順平

10

PURA PURA

バラコの寄り道ぶらぶら

次にどうやって渡していけるか

試行錯誤している。

小川絵梨子×桑原裕子

12

INFORMATION

PLAT

主催公演情報

14

FOYER

『セールスマンの死』

段田安則

15

SUPPORT

TICKET CENTER

裏表紙

大道芸inとよはし

チャラン・ポ・ランタン

矢作——PLATが開館する前年、2012年のゴールデンウィークから「大道芸inとよはし」をスタートして今回で11回目です。

橋本——コロナ禍では大道芸のフェスティバルが出来なかったところがあるのですが、その中でも豊橋ではやれる形を模索してずっと灯を絶やさずに来てくれたことに感謝しています。スポーツも劇場公演も、ライブもなんとか出来ているけれど、全国的に屋外でのお祭り

や不特定多数の人を集めるイベントがやれていません。今まで大道芸は、何かが起こっても場所を要しないし、日本が厳しかったら海外に行けばどこでもやれた。それが全世界、一斉に路上がストップ。大道芸人が何もできない三年間でした。

矢作——元来は普段劇場に足を運ぶことがない人たちにも、街中でパフォーマンスに出会う楽しさを提供するためにスタートしたのが大道芸でした。屋外では感染



橋本隆平



INTERVIEW:1

角谷将視
kan

パントマイム プロデューサー
ゼロコ 橋本隆平
聞き手 矢作勝義 種の国とよはし芸術劇場「ZERO」芸術文化プロデューサー

今この場で共通のことを優先する
それが僕たちの手法。

リスクのコントロールが難しいので、劇場の中で継続しつつ、条件さえ良くなれば表に出ていくことができればと、今年も準備をしています。

橋本——屋外での大道芸と劇場でのステージでは、まったく同じ喜びを伝えられるかという、ちょっとチューニングが違うんですね。環境が整ったステージ上で一本勝負でお客さんと対峙し、しっかりと見せられる人たちが今回は選んでいます。

矢作——今日はゼロコのお二人にもお話を伺いたいと思います。まず、橋本さんからご紹介いただけますでしょうか。

橋本——劇場公演に力を入れているのが、この二人の特徴です。自分たちの世界観をキープした上で、お客さんとの掛け合いの力がある。パントマイムだけで面白かったとしっかりとと言える作品を舞台上にちゃんとつくれる。ゼロコならではの切り口の、絶妙なラインのコメディと笑い。他の人たちとは違う笑いを必ず持ってきてくれる。
矢作——お二人は、どのようなところから大道芸を始めたのでしょうか。

濱口——二人とも舞台出身ですが、僕は舞台と同時に大道芸もやり始め、ソロの大道芸で路上に出たのです。角谷と舞台で知り合って、僕は大道芸の魅力をすごく感じていて、一緒に外でもやらないかと誘いました。

矢作——もともとお芝居自体もマイムを中心としたものだったのですか。

濱口——ストレートプレイをやっていたのですが、二人に共通して口下手な部分があって、パントマイムというセリフのない表現に出会い、僕らにも居場所があったことが嬉しくて、のめり込んでいきました。

角谷——セリフのある芝居では劣等感を抱えていたのですが、マイムと出会ったときに、これなら自分でもできることがあるかもしれないというインパクトがありました。

橋本——大道芸と劇場でのパフォーマンスでは、何か意識の違いはあるのかな。

濱口——劇場ではお客さんに集中力がありますが、ストリートでは外的な要因が強い。すごく集中力があるときもあれば、赤ちゃんも泣くし犬も吠える。そういったすべてを演出として解釈しています。赤ちゃんが泣いたら必ず台本や段取りを差し置いて、今この場では赤ちゃんが泣いているということがみんなに共通の出来事なので、それを優先する。そういう心がけが僕たちの手法に

なっている。
角谷——劇場はブラックボックスなので想像の余地もいっぱいあるのですが、ストリートはその場でしかなくて、そこにしかないものをとりあえず使って、思い切って色々なことができる感じもある。

濱口——ストリートで主にやっている演目は「ティータイム」。ゼロコのルールは、お茶を飲むだけと決めています。一応ネタはいくつかあるのですが、何か起きたら脱線はいくらでもできる構造にしています。お茶を飲んで、もう一杯飲み終わったらショーは終わりです。用意した台本が一度もでてこなかったこともありますし、遊びすぎてお茶を飲むというルールさえも破ったこともある。

橋本——お客さんの前では嘘がつけないよね。その場の環境と呼吸を一緒に共有しながら、どう楽しむかを一緒につくっていく意識が大道芸では無視できないんじゃないかなと思います。

矢作——今回は劇場の中でやっていただく予定ですが、年齢制限はないので、小さなお子さんからお年寄りまで、いろんな方に来ていただけます。

橋本——前回のゼロコは、劇場の中が子どもたちの笑い声で満たされた。子どもたちのキャーとかケラケラとかは、非常に豊かな時間だなと思います。

矢作——そういう客席とのコミュニケーションをとる楽しみにしています。ゼロコさん以外の芸人の方を何人かご紹介いただけますか。

橋本——去年も出演したチャラン・ポ・ランタンという姉妹ユニットは、大ヒットドラマ「逃げ恥」のオープニング曲も担当したミュージシャンですが、大道芸が元々のベースにあるから一味違う。お客さんとの距離感や世界観のつくり方も、やはり音楽の中でも大道芸という違うフィールドを取り入れている人たちならではの力がある。舞踏のネコ☆ソギ、フラメンコのオジロス、コメディのFUNNY BONESも登場します。色々なアーティストをピックアップして、いわゆる大道芸というイメージが固定化しない方がいいと思っています。「大道芸ってジャグリングでしよう?」とか「パントマイムでしよう?」とか言われることもありますが、そもそも大道芸って超抽象的。全部のジャンルを包括し、表現を劇場ではなく屋外を使って皆さんに届けるのが大道芸です。その中には細かなジャンルの区別がありません。

矢作——楽しみですね。大道芸という言葉の中に非常

5月4日[水・祝]10:30~18:00

5月5日[木・祝]10:30~16:30

会場=PLAT主ホール、アートスペース

とよはしアートフェスティバル2022

大道芸inとよはし

ゴールデンウィークは豊橋に大道芸がやってくる!

に幅の広いさまざまなパフォーマンスをお届けすることによって、「あ、これ好き!」というのを見つけて欲しいですね。

橋本——いつも意識しているのは全体でのハーモニーです。いろんなジャンルのパフォーマーを集めたとき、ハーモニーがあると跳ね、ハレーションを起こすと跳ねないのです。このジャンルではこれを選ぼう、でもこのジャンルがいるならあのジャンルがいてほしい、というように、全体のバランスを見ながら、全体の空気が一つのしっかりとしたフェスになるかを考えています。

矢作——お二人に、今回出演していただく芸人さんの皆さんを代表して、一言メッセージをお願いします。

濱口——去年は全然違うジャンルともいえる雅楽の方とご一緒しましたが、ゼロコや他のパフォーマーを観に来た方からすると、雅楽は意外かもしれない。逆に雅楽を観に来た方にとっては僕たちの存在は異色だったと思います。今好きなものを選べる時代に、思いがけないものに出会える場があるということが衝撃でした。そういったものを皆さんに体験していただきたいなと思っています。

角谷——本当に出演者の方がバラエティ豊かで、いろんな角度で感性を刺激されます。とはいえ、もう何も考えずとにかく楽しんでいただければと思います。

濱口——興味がなかった人が興味を持って立ち止まるのは、大道芸の醍醐味ですね。

矢作——普段劇場に足を運ばない人たちにパフォーマンスの楽しさを提供することで、最終的には巡り巡って劇場にも気軽に来ていただければと思っています。ありがとうございます。

とよはしアートフェスティバル 2022

大道芸 in とよはし

5月4日[水・祝]・5日[木・祝]
会場=PLAT主ホール、アートスペース

加納真実 [マイムコメディ]

大ヒットした歌謡曲にのせて、奇妙な青いジャージ姿の女が、ストーリーがいに追ってくる!?これは芸なのか?いやアート?それとも...。これぞ、冷静と情熱の間の、その隙間。抜け出せない加納ワールドをご堪能あれ!



FUNNY BONES [パペット・コメディ]

世界を旅する芸人クリスとけいぼー。2人がカバンを開くと、おもちゃ箱のように楽しさがあふれだす!特に巨大なゾンビのパペットはなく会場は驚きとカオスに包まれます!!ちよびり怖くて、めちやくちや楽しい、世界の人が愛するコメディ&パペットパフォーマンス!



中国雑技芸術団 [中国雑技]

バランス・軟体が魅せる、壮絶な技抜かれた身体が魅せる、壮絶な技の数々。観る者の想像を軽く凌駕する驚きの連続に、息を呑むのも忘れてしまうほど!はたして今年は何んが技が繰り出されるのか?それは見てのお楽しみです!!



チャラン・ポ・ランタン [唄とアコーディオン]

あのヒットドラマ「逃げ恥」のOP曲でもお馴染みの姉妹ユニット!バブル音楽、シャンソンなどをベースに、サーカス風の独特な世界観で、テンション高めに!哀愁たつぷりに!そして、ちよつとお茶目に!2人にしかできない音楽の力で最高のステージをお届けします!



竹内直 Old & New Dream Jazz Orchestra [ビッグバンド]

これからの日本のジャズ界を背負って立つ才能あふれる新進のミュージシャンと、竹内直を筆頭とするベテランミュージシャンによるナインピースJazzオーケストラ。これだけのメンバーが一堂に会すること、それだけで奇跡といえる最高のラインナップ。世代を超えた才能が、本気の音楽、Jazzの真髄をお届けする一夜限りのスペシャルLIVE!!



オジロス [フラメンコ]

激しく情熱的な踊りと、かき鳴らされるギター。人生の喜怒哀楽を物語る情緒的で官能的な旋律!スペイン・アンダルシアにルーツを持つフラメンコ。飛び散る汗と迫力は、強く、激しく、心と魂に響き渡ります!



ゼロコ [パントマイム]

息抜き?気分転換?そんな時には、さあお茶しよう!せわしない日常の中で、ほっと一息リズムを変えて。笑いあり、驚きあり、じんわり、しみじみ、ほのぼののしちゃう。ポットの紅茶を飲み終わるまでの魔法の時間!



ネコ☆ソギ [舞踏]

今後の舞踏の世界を担う若き才能達がここに集結!異分野の技術・手法を取り入れ、独自のスタイルと世界観で産み出す、まさに彼らならではの舞踏。開け混沌!踊れSOUL! あなたのHEARTをネコ☆ソギます!



ココナッツ山本 [コメディ]

うさん臭さ溢れるジャケットと漂うオーラ。この男、見るからに怪しすぎる。アクが強い、アクしかない!でも嫌いじゃない...いや、むしろ好きだ!そう、この面白さ、吸い寄せられて離れられない...ココナッツ。観客の吸引力が変わらない、ただひとつの大道芸人!



京極朋彦[きょごく・ともひこ]
／ダンサー・振付家。京極朋彦ダンス企画主宰。平成27年度文化庁新進芸術家海外派遣事業研修員としてウィーンにて研修。ソロダンス

京極朋彦「カイロー」
写真:Oriol Molló

を2010年初演から今までに5か国11都市で上演。17年より兵庫県に移住、ダンサー・振付家の伊東歌織と「京極WORKS」を立ち上げ、子供からシニア世代まで、人と地域と芸術を繋ぐ創作活動を行っている。

豊橋アーティスト・イン・レジデンス「ダンス・レジデンス」でこれまで滞在制作した3組による贅沢なトリプルビル。代表作や近年発表した作品、豊橋で創作した作品を、PLATならではのセレクションで上演。

6月10日[金]19:00開演
6月11日[土]14:30開演
会場=PLATアートスペース

京極朋彦「カイロー」
振付・演出・出演=京極朋彦 [2020年度滞在]

BATIK「春の祭典」
「ダンス・レジデンス」創作作品

振付・演出=黒田育世 出演=加賀谷香、BATIK [2020年度滞在]

富士山アネット「Unrelated to You」

構成・演出・振付・映像=長谷川寧 [2018年度滞在] 出演・共同振付=南雲麻衣

上演順未定

富士山アネット／2003年結成。作家・演出家・振付家の長谷川寧が代表を務める。異ジャンルとのコラボレーションを通じ作品の本質を見詰め直す「疑・ジャンル」をテーマとする。近年の活動として、21年 KYOTO CHOREOGRAPHY AWARDファイナリスト採択、22年ロンドン[ELECTRIC JAPAN2022]フェスティバル招聘。代表の長谷川寧の外部構成・演出・振付作として、[死刑執行中脱獄進行中](原作:荒木飛呂彦/15)等。

富士山アネット「Unrelated to You」
写真:Hajime Kato

上栗——2014年にBATIKが上演したダンス公演『落ち合っている』の中の劇中劇として『春の祭典』がありましたが、このときすでに一つの作品として『春の祭典』の構想はあったのでしょうか。

黒田——『落ち合っている』を発表した後も、『春の祭典』を上演する機会を持ちたいとずっと思っていました。2020年度にPLATで滞在制作をさせて頂いたときもですが、『春の祭典』は何度もスタジオパフォーマンスを試みています。ソロや群舞など様々な形で上演することで、BATIKのダンサーの実力を上げていくという素材にもなっていく作品でした。スタジオパフォーマンスを繰り返すことの大きな意義がダンサーの育成ですが、一方、舞台上で上演する作品を創作するという事は、作品の本質を表すために、その本質を暴いていくという事で、この作品は絶対舞台上に乗せないと思ふしな思ったのです。

上栗——この10年はスタジオパフォーマンスとその再演、そして市民向けのワークショップショーイングなどの比重が増えています。意図されているのでしょうか。

黒田——強い意志をもってとういう形にしているとは言いが切れない側面があって。でもそれがだんだん私にとって価値のある事なんだ、非常に学ばせてもらう、強くなれることなんだってわかってきました。ワークショップをするために活動をするという事ではないんですけど、ひょうたんから駒で、本当にいろんなものを教えていただきました。

上栗——作品作りについて、依頼があって作る方が、黒田さんの中では作りやすいのですか。

黒田——ご依頼いただいてもイメージが湧かないというか、絵が降ってこなかったら作れないので、ご依頼いただいたときは「できるかわかりませんが、もし絵が見えたらすぐご連絡します。お待ちください」って言って「うーん」って考えると、必ず降りてくるんです。見えたってなったらお引き受けしますし、自分の作品もそうです。依頼をお受けするかできないかは別として、見えたら作ります。だけど、見えなかったら私は一切動かないです。

上栗——黒田さんにとっての『春の祭典』の魅力を、ご自身のことばで語るとすると。

黒田——楽曲自体は禍々しいものを感じますし、あんまり好きじゃないです。だけど、『落ち合っている』を作ったときは妊娠中で、母になるという幸せをかみしめているときに、この反対側は何だろうと思ったら、頭の中に『春の祭典』が流れ、子どもを食い殺す母親の物語がパラパラマンガみたいに見えたのです。もちろん美しい旋律もありますが、やはり怖いと思います。何か暗号のようなものとか、呪文のようなものを感じます。家で掛けて聴きたいとは思わないですが、たぶん、一番幸せなときにあの曲が必要だったのだと思います。それが、絵と共に私に降りてきたのだと思います。

上栗——コロナ前後で映像や新しいオフアームが増えられたと思うのですが、何か変化はありましたか。

黒田——今は東京のスタジオをお借りできていますが、

日々色々な場所を転々とするときもあります。緊急事態宣言などが出ると公共施設は閉鎖してしまい、稽古ができなくなり、羽根を取られたような気持ちになります。手足をもがれたような、ものすごい不自由を感じるんですね。感染対策もして、ガイドラインも守る、何でも言うことを聞きますから稽古をさせて、作らせて、と。今はもう本当に自分のスペースが欲しいですね。だって何のために生きているのかわからなくなってしまう。作品を作るために生まれ、踊るために生きているのに、これができなくなると、もう怒りですよ(笑)。自分の一番大事なものを取られた感じで。

上栗——2020年のコロナ禍において作ることの必要性を実感した滞在でした。豊橋としては「お帰るなさい」という気持ちで、楽しみにしている方がたくさんいると思います。

黒田——あの日々は、ホントに充実して、ありがたいの極みで、若いダンサーたちは、10日弱でみんなたくましくなりました。若いうちは、ああいう感じで週5とか、週6で本当に踊り続けていたら絶対うまくなる。BATIKは私の娘のような存在なので、やはり環境は差し上げたい。だってあの10日間であんなに体ごと変わっちゃうんだから、どれだけ上り詰められるか。20代は毎日踊り続けられればいいと思っていますが、バイトもしないといけないし、コロナでスタジオも閉まりました。私は小さいけどスタジオがあるので自分でトレーニングを毎日できましたが、みんなは家具を避けたりして、何とかやっていたみたいです。

上栗——ダンサーとの関係性で気をつけておられることをお聞かせください。

黒田——上下関係みたいになりがちだけど、お互い

聞き手 上栗陽子 穂の国とよし 芸術劇場 PLAT 事業制作部
踊るために生きている。黒田育世

BATIK 振付・演出

に役割が違う関係でいいですね。私は振付をする人、みんなはそれを踊る人で、上下はなく。その機能を最大限に活かして対等でいい。ただ、経験が違うので、お伝えできることはあります。振付はダンサーに伝えることが山のようにあり、しかも非常に抽象的で、それを、つかみ取ってもらわないといけない。理解する以上の理解が必要になるわけです。伝わるように話す時って、自分のことは信じていなくても、相手のことは信じないと渡せない。あなたを信じますという気持ちにならないと、伝えようという心も湧きあがらないというか。そういうことを繰り返して、ダンサーを信じる体質になりました。それがたぶんコミュニケーションなのだと思います。エネルギーは使いますが、信じないとやっぱり作品は作れない。要するにダンサーに私の見ている絵が伝わらない限り作品は実現しないので、自分ひとりではできないものじゃないから、私が見ている世界をくみ取ってもらわないといけないので、その作業というのが、私がまずダンサーを信じるということです。かつ、ダンサーはたぶん私の作品を信じてくれているかどうかはわからないですけども、ダンサーを信じるように私は自分の見た絵を信じているんです。自分ではないから。自分がやりたいことでも何でもないから。他人にとってはたぶん信ぴょう性のないものだと思います。私が説明できるわけでもないし、私はやりたいことは何もありません。自分の中に何も持っていない。ただ全部見えるんです。本当に。私に訪れてくれたものだから、やらなきゃいけない、立体化しないといけない。こういうものを踊ってもらう訳ですから、信じないとできないですね。

上栗——楽しみにしています。ありがとうございました。

INTERVIEW : 2

BATIK / 黒田育世の振付による創作を中心としたダンスカンパニー。02年に設立、主な作品に『SIDE B』『SHOKU』『ベングントイヴ』『おたる鳥をよぶ準備』など世界16ヵ国で作品を上演。17年に新作『THE RELIGION OF BIRDS』を発表、各地で好評を博した。敢えてバレエのテクニックを基礎にもったカンパニーとして、多様化するコンテンポラリーダンスの表現の中で「踊ること」にこだわった活動を行っている。

BATIK「春の祭典」
写真:関暁

矢作——今回『関数ドミノ』を再演するにあたり、どんなことを考えられたのでしょうか。

前川——昨年上演した『外の道』の次の新作は来年の春にと考えていて、それで今年は再演をと思っていました。以前、『関数ドミノ』に続きがあるとしたら派手なスーパーヒーローの話になり、きっと面白くなるのじゃないかと書いたことがありました。僕的には冗談で書いたけど、プロデューサーが「面白いんじゃないの?」って。劇団員も乗り気で。じゃあキャストもシャッフルしてと話が進みました。

矢作——安井さんは俳優として、もう一度どうチャレンジしたいと思われているのでしょうか。

安井——劇団員にも『関数ドミノ』のファンが多いんです。だから「またやるのか」という感じはなかった。誰が何をやるのか。もちろん、誰がどこをやっても、新しい『関数ドミノ』になり、楽しみです。

矢作——キャスティングをシャッフルしながら、どのように考えて作品作りをするのでしょうか。

前川——一応ルールとして、決めつけを一切しない。だから全然違う解釈とか、違う見せ方とか。美術や役が変わったり、脚本を書き直したりと、前回やったことを踏まえて違うことをやる。もちろん切り口は稽古初日に提示するので、新鮮な感じではできないかな。

安井——これだけ空いていたら、色々ともう忘れてるし、自分たちも、「あそこはああしとければ」とか、「あのときは違うことを」とかが、稽古していく段階で自然と出てくると思います。

前川——8年も空いているから、結構「おお」となるなという気はします。本家だからこぞできる、台本に縛られなさもある。イクウメ以外の演出家と俳優たちだと、もともとある台本を手掛かりにしますが、僕らはそこから解放され、より自由だから変えられるのかもしれない。

矢作——劇団員に安定した男優5人がいて、みんな一緒に年齢や人生を重ね、それが具体的ではないにしても、戯曲に反映されるということでしょうか。

前川——配役を考えると、初演は女性が演じた役を再演では男性がやり、今回はまた女性に戻る。今まで劇団員の森下創の役ではなかったのに、彼

でやってみたら面白いのではないかとということが、必要に迫られて出てくる。14年版は、安井さんが演じた『地下室の手記』の主人公のキャラクターがすごく近いから、彼を真壁役にはめ込んだ。それは、初演で描いていた若者の自意識の問題ではなく、結構いい年した人の存在意義まで描く世界を分厚くできると思いました。その時々タイミングとか、時期があります。

安井——2017年に瀬戸康史さん主演で上演されたバージョンは、物語は希望で終わります。僕が主演のバージョンでは、絶望でした。同じ作品で、180度違うエンディングが待っているという、そのギャップはすごい。「書けない」と最後のシーンの台本がなかなか出来上がらなかったのを覚えています。最後消滅するので、「カーテンコールも出ないほうがいいですか」と聞いたのですが「出てください」と。

矢作——そこから8年、劇団として、劇作家・演出家として、変わったと思うところはありますか。

前川——主人公の真壁が抱えている問題が、格差の下の方に追いやられて、そこから動けなくなっている人

前川知大[まえかわ・ともひろ] / 劇作家・演出家。2003年結成のイクウメを主宰。目に見えないものと人間との関わり、日常の裏側にある世界からの人間の心理を描く。空間と時間を同時に編集するシームレスな演出が特徴。「外の道」「天の敵」「太陽」「散歩する侵略者」「獣の柱」など、SFや哲学、オカルト、ホラー作品の創作と公演活動を続ける。国内演劇賞を多数受賞し、「散歩する侵略者」(黒沢清監督)他、舞台作品が多数映画化されている。

安井順平[やすい・じゅんぺい] / 1995年よりお笑い芸人、2007年より俳優として活動し、2014年「地下室の手記」「片鱗」で第21回読売演劇大賞優秀男優賞を受賞。劇団イクウメにも所属。舞台・映画・ドラマと多方面で活躍中。近年の主な出演作にNetflix「新聞記者」、KTV「ドクターホワイト」、CX「めぐる。」、大河ドラマ「青天を衝け」、映画「燃えよ剣」などがあり、映画「極主夫道」の公開も控える。

たちや、個人的な悩みだったものが社会的な悩みに変わったのが、この8年だと思うのです。その辺のことが、多分入ってきます。

矢作——作品を作るにあたって、劇団員とのクリエイション作業は、どうされているのですか。

前川——台本は僕一人で書いていますが、初稿がそのままだけではない。再演でも書き直しになると、稽古場で意見を出し合って直します。大きく動くときは、構成も変わります。

矢作——劇団員としては、そういうプロセスを楽しんでいらっしやるのでしょうか。

安井——前川さんは枠組みをカッチリ決めていますが、その枠組みの中で自由にという感じ。勝手に動いても、前川さんのやりたいことが見えていればOKです。それでみんなが納得して進んでいるので、作るプロセスはやはり楽しいですね。

矢作——毎回、外部から初めて参加される方に、前川さんは、どんなことを心掛けているのですか。

前川——稽古が始まる前に個別で会って二人でお話し

INTERVIEW: 3

派手なスーパーヒーロー物を ずつと妄想してきた。

作・演出

前川知大 安井順平

出演

聞き手 矢作勝義 種々の国とよはし芸術劇場 PLAT 芸術文化プロデューサー



6月25日[土]13:00開演
作・演出=前川知大
出演=浜田信也、安井順平、盛隆二、森下創、大窪人衛/
温水洋一、小野ゆり子、太田緑、ロランス、川嶋由莉
会場=PLAT主ホール

イクウメ 『関数ドミノ』

スーパーマンは実在する、しかもそれは日本人だ。

桑原—— PLATの芸術文化アドバイザーは芸術監督に近い役割になるのですが、就任以降、「芸術監督ってどんな役割ですか?」というお話を芸術監督の皆様からお伺いする対談をしています。就任当初から小川さんにお話を伺いたいと思っていて、5月に新国立劇場で『ロビー・ヒーロー』の演出をさせて頂くということもあり、やっとチャンスが巡ってきました。よろしくおねがいします。

作品を作るにあたって、小川さんは話し合いやコミュニケーションを大事にしていると伺いました。それはアメリカでの経験が大きかったのですか。

小川—— そうですね、大きいと思います。演出家の方によってそれぞれ個別に演出方法をお持ちだと思うのですが、私はアメリカで学んだ演出方法を元に自分なりに工夫している感じです。俳優さんにもそれぞれのやり方がありますし、私の方法が一方向的な押し付けにならないように、話し合いながら、お互いを知り合いながら進めることが必要なので、稽古場でのコミュニケーションはとても重要だと感じています。

桑原—— 小川さんが芸術監督に就任してからの取り組みの中で私がすごく興奮したことに、フルキャストオーディションがあります。以前は、まったく無名の俳優が新国立劇場プロデュースに出るという道筋の想像がつかなかったのですが、それはどんなお考えがあったのですか。

小川—— オーディションはすごく大事というか、やりたいとずっと思っていました。オーディションを経ることで、稽古場には「この作品をやるぞ」と前のめりになってくださっている方が集まっているので、それが充実した稽古への推進力にもなりますし、この時点で作品作りの第一歩が終わっているというか(笑)。ただ、始めた当初は本当に応募してくれる人なんているんだろうか、という不安はありました。

桑原—— 本当ですか!? KAKUTAの劇団員も、「新国立劇場のオーディションを受けていいですか」とみんな燃えていましたし、実際選ばれた方々には、「この人もオーディション受けたんだ」という方もいらっしゃいました。として選ばれた役者同士でモチベーションを共有するのはすごくいいなと思いました。

日本の公共劇場の芸術監督に小川さんが30代の若さで就任したことも注目されたのですが、お話があったときに、まだ自分には早いなという感覚はありましたか? 小川—— 正直、最初は「何人に断られたのだろう」と思いました(笑)。私は自分の演出作品で手一杯でしたから、そんなお話が来るなんて1ミクロンも考えていませんでした。でも、私に何かを期待されてお声がけを頂いたんだと思うから、それに応えなくてはいけない。私の考えが合っている間違っているかはさて置き、ある方向性を指し示すことに芸術監督の意味がある。また、私個人以上に、私たちの世代全体への期待を込めての選出だったのかなとも思いますので、同世代やもっと若い世代の方々がより多く活躍できる場を作りたいなと思いました。次の世代の人たちに、自分が嬉しかった

ことはそのまま、逆に苦しかったことは少しでも減らした環境を渡すことができればいいなと強く思っています。

桑原—— 芸術監督になると決断したとき、具体的にどんなことを考えたのですか。

小川—— 幅広い観客層へのリーチ、国内外を含めた作り手との繋がり、演劇の作り方の実験、フルオーディション、ディベロップメント、ワークショップ、海外招聘、とやりたいことは山のようにありました。始められることから始めて、非常に時間がかかるけれど、一つ一つ擦り合わせしながら進めています。常に試行錯誤の繰り返しではありますが。

桑原—— 最初から「私がやるからにはこう改革するぞ」というよりも、徐々に積み重ねていったという感覚ですか。

小川—— そうですね。新国立劇場と一緒にやりたいなと思ってくれる人が少しでも増えるといいなと思っていました。そのために、新国立劇場のものの考え方がったり、作り方がったり、人間がたりを、少しでも興味を持って

小川 絵梨子 [おがわ・えりこ]
/ 2004年、ニューヨーク・アクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07年、平成17年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修生。18年9月より新国立劇場の演劇芸術監督に就任。近年の演出作品に、『ダウト～疑いについての寓話』『検察側の証人』など。新国立劇場では『キネマの天地』『タージマハルの衛兵』『骨と十字架』『スカイライト』『1984』などの演出のほか、『かもめ』『ウィンズロウ・ボーイ』の翻訳も手がける。



新国立劇場演劇芸術監督
小川 絵梨子

次にどうやって
渡していけるか
試行錯誤している。

桑原 裕子
穂の国とよはし芸術劇場PLAT
芸術文化アドバイザー

もらえるように、信じてもらえるようにしていくにはどうしたらいいかとずっと考えてきました。

桑原—— 芸術監督として社会との繋がりをどうお考えですか。『ロビー・ヒーロー』の演出のお話をいただいたときに、現在にアンテナを張っている印象があったのですが。

小川—— 私自身はあまり政治的な事に精通している人間ではないので、なぜ、今この作品を上演するのかや、なぜそれが必要だと思ったのかななどを説明で述べる時には、自分の言葉で説明できないことは駄目だ、知らないまま分かったように何かを言うことは絶対しちゃいけないなと思っていて。アンテナを張るというよりは、自分が社会の一員として興味を湧いているところと演劇が繋がっていると思っています。

桑原—— 小川さんは、思ったこと、自分が気になることに対して正直で忠実で、ごくごくもつともな部分から発想したことが現代的な視点を持った企画に繋がっているよ

うに思います。フルオーディションもそれまで私たちの思っていた概念を壊してくださいました。小川さんが自然体を探っていたことが、とても新鮮にいろんな人たちに届いているのだと感じました。

小川—— そんなふうに言っていたいただいて励みになります。ありがとうございます。

桑原—— 最後に、今後挑戦したいことはありますか。

小川—— コロナが収まったら、劇場に集まってやる企画、演劇をやったことのない方も体験できるワークショップとか、公演以外のこともやりたいです。また、若い演出家たちが集まって、情報交換とか愚痴を言い合ったりしながら、楽に繋がれる場所を作りたいですね。

作品をお届けすると、どうしても誰かのジャッジが入ります。それは創作物としてお見せしている以上当然なのですが、作り手にとってはそれだけではなく、ジャッジが入らない環境でのトライ&エラーの繰り返しもOK!という場が必要です。そうすることで、どんな人でもチームと一緒に、時間を積み重ねながら演劇を作っていける。そういう場を提供できる劇場でありたいと思います。

桑原—— ノージャッジで、ものづくりは始めていいんだと。すごく勇気をもらいました。ありがとうございました。



PURA PURA
バラコ
の
寄り道
ぷらぷら

INFORMATION

PLAT主催・共催公演情報

PLATダンス・レジデンス 作品集



京極明彦 黒田育世 ©関曉 (BATIK) 長谷川 寧 ©Marc Doradzilo (富士山アネット)

4/25 [月] 18:30開演
立川志の輔 独演会
古典、新作問わず落語に新しい息吹を吹き込む、大人気の立川志の輔による独演会です。
●出演＝立川志の輔 ●会場＝PLAT主ホール

予定枚数終了

4/30 [土] 14:00開演
プラット2022年度 プログラム説明会
2022年度、プラットがお贈りする主催・共催プログラムをご紹介します。
●会場＝PLATアートスペース
●料金＝無料(要整理券または劇場ホームページから要申込)
※整理券は劇場1階窓口にて配布中

5/4 [水・祝] 10:30 / 13:00 / 15:30 / 17:00
5/5 [木・祝] 10:30 / 12:00 / 13:30 / 15:00
とよはしアートフェスティバル2022
大道芸 in とよはし
ゴールデンウィークは、世界で活躍する大道芸人が豊橋に大集合!
●会場＝PLAT主ホール、アートスペース ●料金＝無料(要整理券)
※整理券は劇場1階窓口にて配布中

5/13 [金] 18:00開演
5/14 [土] 12:00開演 / 17:00開演
5/15 [日] 13:00開演
『セールスマンの死』
世界中の名優が演じ続けてきたアーサー・ミラーの代表作『セールスマンの死』。舞台上に映像に充実した活動が続けゆるぎないポジションを築き上げた段田安則。65歳を迎える節目の年に更なる飛躍を求め、いよいよ演劇界の金字塔に挑む!
●作＝アーサー・ミラー ●翻訳＝広田敦郎 ●演出＝ショーン・ホームズ
●出演＝段田安則、鈴木保奈美、福士誠治、林遣都 / 前原滙、山岸門人、町田マリー、皆本麻帆、安宅陽子 / 鶴見辰吾、高橋克実 ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定]一般11,000円ほか

好評発売中
共催

5/28 [土] 13:00開演
5/29 [日] 13:00開演
『ロビー・ヒーロー』
●作＝ケネス・ローナガン ●翻訳＝浦辺千鶴 ●演出＝桑原裕子 ●出演＝中村蒼、岡本玲、板橋駿谷、瑞木健太郎 ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定]S席5,500円、A席4,000円ほか ※5月28日(土)は終演後トークあり。29日(日)は視覚に障害のある方のための舞台説明会あり(要事前予約)。

好評発売中
5月28日のみ
2022マイセレクト4

託児サービス対象公演
要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様500円。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで



マイセレクト4 対象公演
2022



イキウメ



「外の道」舞台写真(2021年)撮影:田中亜紀

6/10 [金] 19:00開演
6/11 [土] 14:30開演
PLATダンス・レジデンス 作品集
●会員先行＝4月16日(土) ●一般＝4月23日(土) ●上演作品＝京極明彦『カイロー』、BATIK『春の祭典』、富士山アネット『Unrelated to You』 ●会場＝PLATアートスペース ●料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付き]一般3,500円ほか

6月11日のみ
2022マイセレクト4

6/18 [土] 14:00開演
6/19 [日] 12:00開演
『黄昏』
1978年に初演、以来日本を含む世界各地で上演され、ゴールデングローブ脚本賞を受賞した作品が豊橋に初登場!
●作＝アーネスト・トンプソン ●翻訳＝青井陽治 ●演出＝鶴山仁 ●出演＝高橋恵子 / 瀬奈じゅん、松村雄基 / 石田圭祐ほか ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定]8,800円

好評発売中
共催

6/25 [土] 13:00開演
イキウメ『関数ドミノ』
●会員先行＝4月16日(土) ●一般＝4月29日(金・祝) ●作・演出＝前川知大 ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定]S席5,800円、A席4,000円ほか

2022マイセレクト4

7/13 [水] 19:00開演
7/14 [木] 13:00開演
オフィス300
『私の恋人 beyond』
芥川賞作家・上田岳弘の同名作品をベースに、渡辺えり流の切り口で贈る音楽劇!
●会員先行＝4月23日(土) ●一般＝5月7日(土) ●作・演出＝渡辺えり ●原作＝上田岳弘『私の恋人』(新潮社) ●出演＝小日向文世、のん、渡辺えりほか ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定]S席7,500円、A席5,500円、B席4,000円ほか ※各発売日初日はお一人様1申込につき1公演4枚までの枚数制限あり。
[特別協賛＝サララグループ]

7月14日のみ
2022マイセレクト4

8/6 [土] 13:00開演
8/7 [日] 13:00開演
マームとジブシー『cocoon』
人気漫画家・今日マチ子が沖縄戦に動員された少女達に着想を得て描いた同名作品を脚本・演出家の藤田貴大によって舞台化、女学生たちのかしましくも平凡な学園生活が戦争によって否応なしに死と隣り合わせの日常へ変わっていく様を描いた作品が、豊橋に再登場!
●会員先行＝5月28日(土) ●一般＝6月11日(土) ●原作＝今日マチ子『cocoon』(秋田書店) ●演出＝藤田貴大 ●音楽＝原田郁子 ●出演＝青柳いつみ、小泉まき、菊池明明ほか ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定]S席5,000円、A席3,000円ほか

8月6日のみ
2022マイセレクト4

オフィス300
『私の恋人 beyond』



小日向文世 のん 渡辺えり

マームとジブシー『cocoon』



マームとジブシー『cocoon』

プラット親子わくわくプログラム『クノチ テクテク マナツノ ボウケン』



プラット親子わくわくプログラム『クノチ テクテク マナツノ ボウケン』

チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

●劇場窓口・電話0532-39-3090[休館日を除く10:00-19:00] ●オンライン http://toyohashi-at.jp[24時間受付・要事前登録] ●チケット販売＝販売初日はオンライン・電話のみ取り扱い。翌日以降、残席がある場合は窓口販売あり。

U25・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
●料金＝U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額 / 高校生以下:1,000円 ●購入方法＝各公演の一般発売初日から取扱ひ。●その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。



『ロビー・ヒーロー』

8/23 [火] 15:00開演
8/24 [水] 14:00開演
プラット親子わくわくプログラム2022
『クノチ テクテク マナツノ ボウケン』
振付家・北村明子と現代美術家・大小島真木による鮮やかな視覚効果が注目のダンス作品。「夏休み」をテーマに自然や生命をめぐります。
●会員先行＝6月18日(土) ●一般＝6月25日(土) ●振付・演出＝北村明子 ●美術＝大小島真木 ●会場＝PLATアートスペース ●料金＝[全席自由・整理番号付き]大人3,500円、U25 1,700円、こども(高校生以下)500円

8月23日のみ

若手音楽家育成事業
プラットワンコインコンサート
「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。
●会場＝PLATアートスペース
●料金＝[全席自由・整理番号付き]500円

4/27 [水] 14:00開演
『歌う魅せる 寄り添うヴァイオリン』
辻純佳(ヴァイオリン)

好評発売中

5/21 [土] 17:00開演
『チューバとピアノで誘うファンタジー』
こどもデュオ 磯谷莉佳(ピアノ)、加藤由依子(チューバ)

好評発売中

7/16 [土] 14:00開演
『静かなる真実』
波多野董(ピアノ)
●会員・一般発売同時＝5月20日(金)

8/2 [火] 14:00開演
『ボンジュール・アゼリア!～フレンチを音楽はいかが?～』
Quintet Azalea [クインテット・アゼリア]
西前菜々子(クラリネット)、成田萌(ヴァイオリン)、本間京(ヴァイオリン)、三浦可菜(ヴィオラ)、稲田悠佑(チェロ)
●会員・一般発売同時＝5月20日(金)

9/2 [金] 18:30開演
『Prayer for peace ～平和への祈り…として、願い～』
山本愛花音(ピアノ)
●会員・一般発売同時＝5月20日(金)

高校生と創る演劇「新作公演」
高校生出演者 & スタッフ募集
公募による高校生出演者とスタッフが、劇場やプロのスタッフとともに上演する演劇の第9弾。今年は脚本に田坂哲郎、演出に川口智子を迎え、新作戯曲を上演します。
●対象＝2004年4月2日から2007年4月1日までの方 ●定員＝出演者:12名程度、スタッフ:若干名 ●審査＝5月6日(金)～8日(日)のいずれか ●申込方法＝4月22日(金)17:00までにオンライン申込み、又は参加申込書に必要事項を記入の上、窓口持参郵送。

市民と創造する演劇「新作公演」 出演者募集
公募による出演者が、劇場やプロのスタッフとともに上演する演劇の第9弾。口芝クック主宰で劇作家・演出家の山田佳奈を上演台本・演出に迎え、W.シェイクスピア『ロミオとジュリエット』を原案に書き下ろした新作を上演します。
●対象＝高校生以上でワークショップ、稽古、公演日(2023年3月4日・5日)に参加できる方 ●定員＝30名程度 ●審査＝7月9日(土)・10日(日)のいずれか ●申込方法＝4月30日(日)申込開始。6月21日(火)17:00までにオンライン申込み、又は参加申込書に必要事項を記入の上、窓口持参郵送。

樋口ミュ 戯曲創作講座2022
劇作家・演出家の樋口ミュを講師に招き、「劇作」を学びつつ、全6回の講座で1人1万字以下の短編戯曲を書き上げ、1冊の戯曲集を発行することを目指す講座です。
5月22日[日]～7月10日[日]【全6回】
●講師＝樋口ミュ ●会場＝PLAT研修室(小) ●参加費＝一般:10,000円、U25:7,500円、高校生:5,000円 ●対象＝全6回全てに参加できる高校生以上の方。戯曲執筆経験の有無は問いませんが、文章執筆経験のある方。 ●募集人数＝7名(書類選考あり) ●申込方法＝5月8日(日)までに①参加申込書を窓口、FAXにて提出②劇場ホームページの専用申込フォームより

若手音楽家育成事業
プラットワンコインコンサート2022 出演者募集
音楽鑑賞の普及と同時に、豊橋および三河地域にゆかりのある若手音楽家に演奏の機会を提供し、地域の若手音楽家らの支援・育成を目的としたプラットワンコインコンサート。劇場と共にコンサートをつくり、出演する若手音楽家を募集します。
※応募条件・詳細は劇場ホームページをご確認ください。
●審査＝[一次]書類[二次]実技:6月28日(火)～30日(木)のいずれか16:00以降 ●申込方法＝5月20日(金)までに必要書類を窓口提出か郵送(当日消印有効)

『セールスマンの死』

5月13日[金]18:00開演 5月14日[土]12:00開演／17:00開演 5月15日[日]13:00開演
会場=PLAT主ホール



作=アーサー・ミラー 翻訳=広田敦郎 演出=ショーン・ホームズ
出演=段田安則 鈴木保奈美 福士誠治 林遣都/前原滉 山岸門人 町田マリー 皆本麻帆 安宅陽子/鶴見辰吾 高橋克実

現代の日本に生きている
皆さんに共鳴できる舞台。
段田安則 出演

初めて本作をご覧になられた時の感想は
段田——二十歳くらいの時に初めて滝沢修さんが演じられた作品を拝見しました。その時は、「これがあの有名な名作か」くらいの印象だったのですが、あれから45年が経ち、今の年齢で台本を読むと感じ入ることも多くありますね。やはり素晴らしい本だなと思い、お引き受けしましたが、一年半ぶりくらいの舞台なので「よし、やるぞ!」という気持ちと「大丈夫かな、僕でいいのかな」という両方の気持ちがある状態です。
名優たちが演じられてきた役ですが
段田——それを考えると、これはマズイぞ、と(笑)。でも、今は演出家のショーンさんに委ねてなんとかやってみようぞ!と気合を入れています。優れた台本なので、その台本に忠実にやれば、自然に僕なりのウィリー・ローマンが出来上がるのではないかと考えています。その前にちゃんとセリフを覚えないとね。(笑)
昔と今の違いに葛藤するローマン、段田さんはいかがですか
段田——気持ちは20代30代の頃と変わりませんが、

身体がね。例えばスポーツ選手ならピークを迎えた後は難しいですが、俳優は、セリフ覚えなど歳をとることで難しくなることもあります、ありがたいことに、若い頃にはできなかった役ができるようになったりします。若い頃には何でもない「ありがとう」というひと言のセリフが、年配の先輩が言うところにも良いんだなあと思った記憶があるんです。セリフに付随しているものが、歳を重ねることによって若い頃よりも意図せずに滲み出てくるのかなと感じています。
最後にメッセージを
段田——悲しい暗いお話ではありますが、現代の日本に生きている男性、女性、若者、年配の多くの皆さんの心が動きやすく、共鳴できる魅力的な舞台だと思います。是非、劇場にお出かけください!

段田安則[だんだん・やすのり]/俳優。1957年京都市出身。81年、野田秀樹氏主宰の劇団夢の遊眠社に入団。92年の劇団解散まで主力俳優として活躍。読売演劇大賞大賞・最優秀話題のドラマにも数多く出演、近年ではNHK連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」「和田家の人々(テレビ朝日)」「半沢直樹(TBS)」など話題作に多数出演。読売演劇大賞大賞・最優秀男優賞など受賞歴多数。

FOYER

SUPPORT

知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

Gallery 48
呉服町48 TEL.54-4848

有限会社 魚伊
電話 52-5256

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話 053-464-3015

竹内産婦人科
産婦人科 婦人科(不妊治療)
豊橋市新本町23 電話 52-5256

ケンチク 701
KURONO ARCHITECT STUDIO
y.qlo0170@gmail.com

うつ、統合失調症、精神遅滞、発達障害、脳梗塞、人工透析、人工関節など
豊橋・豊川障害年金相談センター
初回相談無料 ☎0120-891-498
豊橋市上野町字上山21-8 アイネスD2 障害年金専門社会保険労務士 竹下英司

看板広告 アラキスタジオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

ONOCOM なければつくる
株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間 数きく宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL.53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶屋菓子専門店
若松園
御菓子司

気まぐれコンサート
事務局/0532-62-9259(小川恵司)

安心安全な地下駐車場
パーク500
プラット主ホール・アールスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
医療法人 塩之谷整形外科
理事長 塩之谷 昌
豊橋市植田町関取54 電話 0532-25-2115(代)

豊橋名産 傘あくわ

井上皮膚科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝
電話 0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地1 TEL.46-3281 FAX.46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆 書道用品専門店
高誠堂
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ISO 9001 ISO 14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

sala
サーラグループ

広告募集

TICKET CENTER

チケットの購入・お問合せ
プラットチケットセンター

電話・窓口
0532-39-3090 [休館日を除く 10:00-19:00]
オンライン
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]



プラットフレンズ募集
入会金・年会費無料

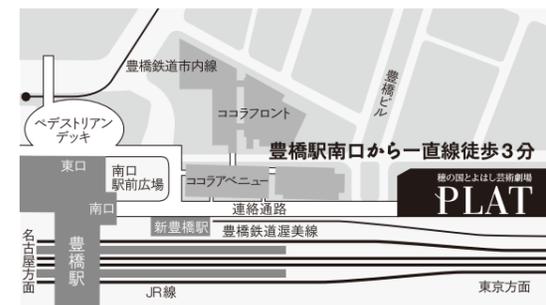
特典
1 公演情報をメールでご案内します。
2 インターネットでチケット予約ができます。
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

U25・高校生以下割引のご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
●料金
U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下:1,000円
●購入方法
各公演の一般発売初日から取扱い。
●その他
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。
一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。

令和4年6月1日からの劇場代表電話の受付時間変更について

穂の国とよはし芸術劇場の代表電話の受付時間を、令和4年6月1日(水)より以下の通りといたします。なお、開館時間・休館日につきまして変更はございません。
●代表電話番号 0532-39-8810
●電話受付時間 9:00~20:00(休館日除く)
●対応開始日 令和4年6月1日(水)



〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表]
開館=9:00-22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT